

青年期における攻撃性の諸相に関する研究

自己愛と対人関係に着目して

A study on Various Aspects of Aggression of Adolescents

— the focus from relation between narcissistic personality and personal relations—

仲野 沙也加

Nakano Sayaka

立命館大学応用人間科学研究科 臨床心理学領域

Ritsumeikan University Graduate School of Science Human Services

Key words: 攻撃性, 自己愛, 対人関係

目的

過剰な攻撃性は青年期特有の人格的特徴の1つである自己愛傾向と正の相関関係にあることが示されている。山崎(2008)はこの自己愛傾向の2成分モデルと攻撃性の関連性を検討し、無関心型は他者への攻撃性に関連性があり、過敏型は相対的に自分へ向けられた攻撃性に関連性があると示した。しかし、これらの先行研究では攻撃性を呈した当人と、攻撃性を向ける他者との立場や地位といった二者的な関係性、当人と家庭環境や友人関係といった三者的な環境に焦点を置いて実施されたものは少ない。そこで、本研究では、自他への攻撃性と自己愛の関連性を再検討することを第1の目的、二者的な関係性の視点から攻撃性と自己愛傾向を検討することを第2の目的とした。本研究の仮説として、無関心型は、攻撃性を示す当人と攻撃性が向けられる他者との二者的な関係性において他人を気にしないことから、攻撃性の様相は変化がなく、一方で過敏型は、他人を過剰に気にかけることから、攻撃性の様相が異なるのではないかと考えた。

方法

調査参加者 立命館大学の大学生 306名(男性 140名, 女性 161名, 無記入 5名) が参加した。参加者は、18歳から26歳, 平均年齢 19.6歳 ($SD=1.6$) であった。

質問紙 調査I~IIIとして、攻撃性尺度(安立, 2001), 自己愛人格目録短縮版(NPI-S) 小塩(1998), 攻撃行動尺度(筆者作成)の尺度で構成され、最後に年齢と性別の記入を求めた。

手続き 調査期間は、2010年5月下旬~6月上旬であった。

結果

攻撃性質問紙の4つの因子において、自己愛総合の主効果がみられた(「積極的行動」 $F(1,302)=44.21, p<.01$ 「対象攻撃行動」 $F(1,302)=25.99, p<.01$ 、「自責感」 $F(1,302)=4.15, p<.04$ 、「自己破壊行動」 $F(1,302)=10.07, p<.01$)。注目-主張の主効果は、積極的行動($F(1,302)=8.86, p<.01$)と、自責感($F(1,302)=5.20, p<.02$)

にみられた。また相関分析により、性差について検討した。男性において自己愛総合得点は対象攻撃行動に正の相関($r=.273, p<.001$), 自責感に負の相関($r=-.26, p<.002$)を示した。注目-主張得点は自責感に負の相関($r=-.247, p<.001$)を示した。女性において、自己愛総合得点は自己破壊行動に正の相関($r=.21, p<.007$)を示した。攻撃行動尺度について、各行動の平均, SD, 二者的な対人関係の項目である家族, 恋人, 知人, 目上の人, 他人の各行動の平均, SDを算出し、相関をみた。自己愛総合得点と自己破壊行動に有意な負の相関($r=-.13, p<.025$) 友人SDと注目・賞賛欲求に有意な正の相関($r=.182, p<.001$), 友人SDと自己愛総合得点に有意な正の相関($r=.119, p<.038$)を示した。

考察

自己愛の高低に関わらず、過敏型の人より無関心型の人ほうが「積極的行動」をとりやすいこと、無関心型の人より過敏型の人ほうが「自責感」を抱きやすいことが示された。性差について、男性は、自己愛傾向の高い人は自己愛傾向の低い人よりも積極的行動、対象攻撃行動をとりやすく、女性は積極的行動、自己破壊行動をとりやすいということが示唆された。次に、二者的な関係性において、自己愛総合得点が低いほど、自己破壊行動をとるときに相手によって行動の頻度のバラつきがみられることが示唆された。また、自己愛総合得点が高い人ほど、攻撃の対象相手が友人であった時、攻撃行動の様相(どの攻撃行動をとるか)にバラつきがみられることが示唆された。一方で、二者的な関係性の中における攻撃行動と自己愛傾向の2タイプは関連がないことが示された。

参考文献

山崎俊輔(2008). 青年期における自他への攻撃性と自己愛傾向の関連 九州大学心理学研究, 9, 143-151.